

研 究 業 績 等 に 関 する 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は 発表学会等の名称	概 要
(著書(欧文))				
1. 該当なし				
(著書(和文))				
1. 「音読・朗読を取り入れた授業2 読みを深めるための音読授業」(『中学校文学的な文章の指導法』河野庸介・松野洋人編著)	単著	2000年 8月	明治図書 (分担)	中学校の学習指導要領改訂にともない、文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導のあり方を改め、文学の読みの改善に取り組んだ実践。「走れメロス」を全4間で読み深める音読の指導実践例である。 (河野庸介・松野洋人・村田伸宏・保坂伸・米山洋子・中島敬康・五十嵐ふみ子・宇賀由香利・坂口幸恵・ <u>渡邊洋子</u> ・他9名) 74頁～81頁(8/181p)
2. 語感を磨き語彙を豊かにし日本語に対する認識を深める指導」(『中学校国語科教育CD-ROM版授業実践資料集』相澤秀夫・花田修一・大内善一他7名編集)	単著	2004年 12月	ニチブン (分担) vol.9-第3章-4-2 (ガイドブック126頁, 131頁)	国語科の学習の基本となる言語事項に焦点を当て、単に語彙を増やすだけでなく、同義語の相違点、和語に視点を当てた言葉の掘り起こしをねらった実践である。(相澤秀夫・花田修一・大内善一・ <u>渡邊洋子</u> ・他関係者概数200名。CD-ROM版15枚セット)
3. 「細案2」説明文の指導「類義語の意味の違いを説明しよう」(『細案・略案で見る中学校新国語授業プラン集第3巻・第3学年編』河野庸介編著)	単著	2005年 2月	明治図書 (分担)	「握る」と「つかむ」などわかっていようでいて、説明しにくい類義語を取り出し、相違点を調べた後、まだその違いを知らない他学年の生徒にわかるように筋道を立てて説明する文章を書く実践例。言葉を再発見した喜びとまだそのことを知らない仲間に伝えるという楽しみから、生徒の書く意欲が喚起される工夫を取り入れた実践である。(河野庸介・持田光世・高橋重年・石川優一・高左右美穂子・佐藤喜美子・五十嵐貴子・岡野健・須藤智巳・ <u>渡邊洋子</u> ・他4名) 59頁～67頁(9/143p)
4. 「反論する読者をも取り込む論説文を書くために」(『作文力を高める新提言 中学校』須田実編著)	単著	2006年 10月	明治図書 (分担) 127頁～134頁	中学校3学年の「書くこと」の総括として論説文に取り組んだ。自分の考えを押しつけていく書き方をするのではなく、そこに読者のいることを想定して、その読者をも巻き込む論説文を書くことを目指し行った実践である。(須田実・松野洋人・栗本郁夫・増田ゆか・中島弘道・阿部登・村田伸宏・渡部祐子・中山敦・宮崎潤一・ <u>渡邊洋子</u> ・他7名) (8/151p)

5. 「直線的な思考から豊かな思考の空間を生み出す」(『わかる板書で読解力を高める 中学校』須田実編著	単著	2007年 11月	明治図書 (分担) 60頁～69頁	板書を工夫することにより、限られた授業時間の中で、豊かに思考し想像する空間を広げることが出来ることを示した韻文を題材とした実践である。(須田実・松野洋人・櫻本明美・中島弘道・高橋伸・村田伸宏・渡辺節子・中山敦・宮崎潤一・ <u>渡邊洋子</u> ・他6名) 10/128p)
6. 「小学生に身につけさせたい「語」の力」(『論理的思考を鍛える国語科授業方略小学校編』井上尚美・大内善一・中村敦雄・山室和也編著	単著	2012年 3月	溪水社 (分担) 149頁～158頁 調査・研究編執筆者	論理語彙の導入を子どもの側に立ってスムーズに行、子どもに定着させるための手立てを示した実践である。(井上尚美・大内善一・中村敦雄・山室和也・新井正樹・飯村真由美・加藤勢津子・関根京子・岩永正史・ <u>渡邊洋子</u> ・他8名) (10/226)
7. 『文章の内容・形式を一体的に読み取る国語科授業の創造』〈小学校編〉大内善一・渡邊洋子編著	共編著	2013年 12月	溪水社	文章の内容と形式を一体的に読み取るための指導方法、指導展開を、2012年から新しく小学校教科書教材として取り上げられた教材を使って具体的に示した著書である。(秋元道恵・飯村真由美・加藤勢津子・勝村桂子・川俣智子・坂本要・下村徹・大内善一・高橋勲・ <u>渡邊洋子</u> ・他9名) (8/149p 及び全体編集)
8. 『文章の内容・形式を一体的に読み取る国語科授業の創造』〈中学校編〉大内善一・渡邊洋子編著	共編著	2013年 12月	溪水社	文章の内容と形式を一体的に読み取るための指導方法、指導展開を、2012年から新しく中学校教科書教材として取り上げられた教材を使って具体的に示した著書である。(芦沢雅子・遠藤直美・開田晃央・草間大史・結解一憲・斉藤美智子・佐藤顕太郎・矢崎寛子・ <u>渡邊洋子</u> ・他1名) (14/245p 及び全体編集)
9. 『実践的指導力を育む大学の教職課程』	共編著	2015年 3月	溪水社	大学の教職課程の担う役割は年々高まっている。いかに4年間で子どもたちに力のつけられる学生を育てるかという点に注目し、現在大学で行っている授業を分析している。(池内耕作・大内善一・阿久津一成・介川文雄・土門能夫・石田隆雄・細川美由紀・ <u>渡邊洋子</u>) (35/218p 及び全体編集)
(学術論文(欧文)) 1. 該当なし				
(学術論文(和文)) 1. 学士論文「ジャン・ジャック＝ルソーの研究」ー内面の過剰ー	単著	1987年 3月		ジャン・ジャック＝ルソーの『告白』に焦点を当て、柄谷行人、カッシーラーなどの考えをもとに、それまで風景という概念を持ち得なかったヨーロッパにあって風景を見つけることの出来たルソーの内面に起こった過剰な状況を探った研究である。

2. 専攻科論文「ジャン・ジャック＝ルソーの研究2」	単著	1988年 3月		学士論文を踏まえ、『エミール』『告白』に焦点を絞り、ジャン・ジャック＝ルソーの過剰な内面の有り様を探り、表現活動や教育活動へのつながりを研究した論文である。
3. 「類義語・対義語の使い方を作品から学ぼう」	単著	2003年 7月	明治図書出版『実践国語研究』No.2 4 4 9 5 頁～9 8 頁	語彙を増やし、語感を磨くための類義語・対義語の学習を取り上げた。概念の形成、言葉の意味の再発見に焦点を当てた実践である。
4. 「小学校で学んだ作品を再教材に一描写に着目して」	単著	2004年 10月	東京法令出版『月刊国語教育』1 0 月号 通巻2 8 9 1 2 頁～1 5 頁	「少年の日の思い出」を描写表現に着目して読み込むために、小学校での既習教材「スイミー」「大造じいさんとガン」をつかい、描写表現とはどういうものか、どのような効果があるのかを学習した実践。焦点を絞った「読むこと」の指導であり、力がつき成就感の得られる授業にするための工夫を試みた。
5. 「根拠を明らかにした文章を書こう」	単著	2004年 10月	明治図書『実践国語研究別冊』 No.2 5 9 1 6 3 頁～1 7 0 頁	生徒にとって難しい課題である「根拠を明らかにした文章を書く」ために、よりわかりやすく書きやすいステップを工夫した実践である。
6. 「作文教育における描写表現の研究―教科書教材を対象として―」	単著	2005年 5月	全国大学国語教育学会『国語科教育研究』（第1 0 8 回山梨大会研究発表要旨集）1 5 4 頁～1 5 7 頁	現行の学習指導要領と昭和4 4 年告示の学習指導要領における描写表現の扱い方及び内容についての比較研究と、描写表現の学習のあり方について現行の教科書教と昭和5 0 年版教科書教材とを比較し考察を行った研究である。
7. 「作文教育における描写表現の研究―2―」	単著	2005年 10月	全国大学国語教育学会『国語科教育研究』（第1 0 9 回岐阜大会）研究発表要旨集2 4 頁～2 7 頁	前回までの研究をもとに描写表現を取り入れた文章を生徒が意欲的に書く実践を2 つ提案した。描写表現を文章中に取り入れようとするこによって対象をどれだけ深くみるかという点に焦点を当てた研究である。
8. 「筆者の発想を読む」―「法隆寺を支えた木」	単著	2005年 11月	明治図書出版『実践国語研究』 No.2 7 0 40 頁～43 頁	説明文は要約・要旨の確認からという授業方法の改善を図った実践。「法隆寺を支えた木」という作品は書かれている言葉の一言一言に向かい合うことで、より本質をつかみとることの出来る説明文である。そこに着目し、新たな読みのあり方を探っている。
9. 「鈴木三重吉『綴方読本』における描写表現の指導観」	単著	2006年 5月	全国大学国語教育学会『国語科教育研究』（第1 1 0 回岩手大会）研究発表要旨集 5 頁～8 頁	大正から昭和初期にかけ、描写表現はどのように作文教育の中で取り上げられたのか、そこから学ぶことは何であるのか、鈴木三重吉『綴方読本』とそこに載せられた子たちの作文を手がかりに現代が失いつつある描写表現の指導価値に着目した研究である。

10. 「作文教育における《みること・描くこと》の研究	単著	2006年 8月	『山梨大学 国語・国文と国語教育』 山梨大学国語国文学会 第13号 10頁～19頁	修士論文として研究を行った《みること・描くこと》についての研究の1部である。現行の学習指導要領と昭和44年告示の学習指導要領における描写表現指導の比較検討、現行の教科書教材と昭和50年版教科書教材とによる描写表現指導の比較検討から、これからの作文教育における描写表現指導に求められる課題点を探っている研究である。
11. 「作文教育における描写表現の研究3」	単著	2006年 9月	全国大学国語教育学会『国語科教育研究』（第111回宮崎大会）研究発表要旨集 47頁～50頁	文章中に描写表現を取り入れるための指導の工夫と生徒に見る力、描く力をつけさせるための指導過程を工夫した実践研究である。
12. 「作文教育における《見ること・描くこと》の研究」	単著	2007年 3月	富士吉田市立教育研修所『平成18年度教育研究第57集 市内教職員研究報告論文集』27頁～47頁	「書くこと」の学習において、友達の作品から学ぶことはその後、文章を書くうえでも大きな成果をもたらす。この考えをもとに、全7時間使って、作品を書く→学級で友人の書き方から学び合う→作品を書くというステップを3回繰り返し、学習する生徒の書くことの認識の変容を追った描写表現に関する実践的な研究である。
13. 「作文教育における描写表現の研究4」一金原省吾『構想の研究』	単著	2007年 5月	全国大学国語教育学会『国語科教育研究』（第112回宇都宮大会）研究発表要旨集 17頁～20頁	金原省吾『構想の研究』にみられる描写表現の指導価値に着目し、描写表現指導史における『構想の研究』の位置づけと意義を明らかにした研究である。
14. 「田上新吉の描写表現指導論」－作文教育における描写表現の研究5－	単著	2007年 11月	全国大学国語教育学会『国語科教育研究』（第113回岡山大会）研究発表要旨集 35頁～38頁	田上新吉『生命の綴方教授』にみられる描写表現指導の歴史的な位置づけと意義を明らかにした研究である。
15. 「国分一太郎の描写表現指導観」－作文教育における描写表現の研究6－	単著	2008年 5月	全国大学国語教育学会『国語科教育研究』（第114回茨城大会）研究発表要旨集 35頁～38頁	国分一太郎の作文教育にみられる「みること・描くこと」の指導観が持つ意義を明らかにし、歴史的な見地から位置づけを行った研究である。
16. 「もっと書きたい！」が育てる表現力	単著	2008年 6月	明治図書『教育科学国語研究』No.693	「読解表現力を育てるアイディア 中学校編」をテーマに据え、新たな教材を提案した研究。
17. 「目を転ずる」	単著	2008年 7月	東京法令出版『月刊国語教育』3頁	国語科の教師として忙中閑の時にどのような学びの環境を準備し、目の高さ、質の良さを求め、自分を磨いていくか。また、その経験や学びをいかに授業や日々の指導に反映させていくかについて実践をもとに論じたもの。
18. テンポ良く、変化のある音読練習を	単著	2009年5月	明治図書出版『実践国語研究』No.294 48～50頁	新学習指導要領で取り入れられた小学校からの古典学習、それにともない中学校での古典学習をどう充実させていくか。

19. 大村はま「学習のてびき」にみられる描写的指導	単著	2009年5月	第116回全国大学国語教育学会秋田大会『国語科教育研究』138～141頁	大村はまの作文教育における描写表現指導の考え方、具体的指導方法、到達点を明らかにするために「学習のてびき」にみられる指導と生徒作品を考察した研究。
20. 明治期の国語教科書における描写表現の位置づけ	単著	2009年10月	第117回全国大学国語教育学会愛媛大会『国語科教育研究』42～45頁	明治期の国語教科書において、描写表現がどのように発展していったか、文章及び指導の観点から探った研究。
21. 人物の描き方に迫る～「光」と「やみ」を手がかりに～	単著	2010年2月	明治図書『教育科学国語教育』No.7 184～87頁	ヘルマン＝ヘッセ著「少年の日の思い出」において、板書を生かして思考力を伸ばすための実践的研究。
22. 大正期の国語教科書における描写表現の位置づけー作文指導の観点からー	単著	2010年5月	第118回全国大学国語教育学会東京大会『国語科教育研究』253～256頁	大正期の国語教科書において、描写表現がどのように発展していったか、文章及び指導の観点から探った研究。
23. 昭和戦前期・戦中期の国語教科書における描写表現の位置づけー作文指導の観点からー	単著	2010年10月	第119回全国大学国語教育学会鳴門大会『国語科教育研究』68～71頁	昭和戦前期・戦中期の国語教科書において、描写表現がどのように発展していったか、文章及び指導の観点から探った研究。
24. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察	単著	2011年5月	第120回全国大学国語教育学会京都大会『国語科教育研究』183～186頁	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から花田甚五郎らの描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った論文である。
25. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察2	単著	2011年10月	第121回全国大学国語教育学会高知大会『国語科教育研究』81～84頁	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から五味義武の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った論文である。
26. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察3	単著	2012年5月	第122回全国大学国語教育学会筑波大会『国語科教育研究』187～190頁	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から志垣寛の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った論文である。
27. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察4	単著	2012年10月	第123回全国大学国語教育学会富山大会『国語科教育研究』131～134頁	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から蓮井藤吉の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った論文である。
28. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察5	単著	2013年5月	第124回全国大学国語教育学会東京大会『国語科教育研究』270～273頁	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から木下米松らの描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った論文である。
29. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察6	単著	2013年10月	第125回全国大学国語教育学会広島大会『国語科教育研究』93～96頁	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から志垣寛の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った論文である。

30. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察7	単著	2014年5月	第126回全国大学国語教育学会名古屋大会『国語科教育研究』55～58頁	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から河邊和四郎の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った論文である。
31. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察8	単著	2014年11月	第127回全国大学国語教育学会筑波大会『国語科教育研究』175～178頁	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から秋田喜三郎の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った論文である。
32. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察9	単著	2015年5月	第128回全国大学国語教育学会兵庫大会『国語科教育研究』287～290頁	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から岡部嘉一の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った論文である。
33. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察10	単著	2015年10月	第129回全国大学国語教育学会西東京大会『国語科教育研究』395～398頁	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から向坊英文の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った論文である。
34. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察11	単著	2016年5月	第130回全国大学国語教育学会新潟大会『国語科教育研究』377～380頁	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から森本公平、佐野恵作の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った論文である。
35. 「走れメロス」に使われている言語技術を取り上げ読み味わう	単著	2016年10月	『国語学力を形成する言語技術—文学的文章編—』61～65頁	中学校2年生光村図書国語科教材「走れメロス」に使われているサスペンスという小説の言語技術の取り立て指導を行うことにより、書き手の立場から作品を読み深めることができることを実践的に提案したものである。
36. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察11	単著	2017年5月	第132回全国大学国語教育学会岩手大会『国語科教育研究』285～288頁	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から竹内文路の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った論文である。
37. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察12	単著	2018年5月	第134回全国大学国語教育学会大阪大会『国語科教育研究』75～78頁	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から峰地光重の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った論文である。
38. 「降り積もる「時」、深まり募っていく思いを言語化しよう」『日本言語技術教育28』	単著	2018年6月	『日本言語技術教育28』144・145頁	小学校6年生光村図書国語科教材「海のいのち」に関して、新たな着眼点により指導内容、指導方法について実践的な提案を行った論文である。

39. 「担任教師に求められる指導力」	単著	2018年7月	『各教科等で活用できる汎用的言語技術の選定によるカリキュラム改善』377～380頁	国語科「読むこと」領域の文学鑑賞技術において、言葉の表面的な意味を知るだけでなく、自分の経験に照らし合わせ、深く理解していく姿勢を養うことが求められる。この視点から実践的な学びの在り方を述べた論文である。
40. 「次の授業、次の教材で発揮できることばの力を養う」る描写表現指導に関する考察11	単著	2018年7月	『各教科等で活用できる汎用的言語技術の選定によるカリキュラム改善』101～102頁	国語科の学習が螺旋的な過程で発展するためには、教材で学んだことが知識をして蓄積されるのでは足りない。既習事項が新たな教材の読みに反映できるよう、言語技術を基盤とした学習指導が求められる。そのことを実践的に明らかにした論文である。
41. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察13	単著	2019年6月	第136回全国大学国語教育学会茨城大会『国語科教育研究』31～34頁	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から考察12に続き、峰地光重の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った論文である。
42. 「謡曲 邯鄲 教材化の試み」	単著	2025年3月	『能と狂言 23』113頁	謡曲「邯鄲」は「一炊の夢」の故事成語と重なる内容である。現在の小学校学習指導要領、中学校学習指導要領における古典学習の目標、教材の位置づけ、各教科書会社の立ち位置、教材比較・分析を行った上で、「邯鄲」の教材としての価値付けを行う研究である。
(紀要論文)				
1. 描写を取り入れた作文指導の研究	共著	2007年12月	茨城大学教育実践研究第26号1頁～16頁	中学生三年生を対象に、言葉と対象と向き合いながら「修学旅行を描く」と「俳句物語づくり」という二つの題材で「書くこと」の実践を行い、描写表現指導のあり方を探った研究。(渡邊洋子・大内善一) (担当1-16/全16頁)
2. 鈴木三重吉『綴方読本』における描写表現の指導観	共著	2008年3月	茨城大学教育学部紀要(教育)57号263頁～275頁	鈴木三重吉の『綴方読本』にみられる描写表現指導観を取り出し、その歴史的な位置づけと意義を明らかにした研究。(渡邊洋子・大内善一) (担当263-275/全15頁)
3. 金原省吾『構想の研究』における描写表現観	共著	2009年3月	茨城大学教育学部紀要(教育)1～9頁	描写表現に関する金原省吾の考えを『構想の研究』に基づき考察した研究である。(渡邊洋子・大内善一) (担当1-9/全9頁)
4. 『写生を主としたる綴方新教授細案』にみられる駒村徳寿・五味義武の描写表現指導観	単著	2009年3月	常磐大学人間科学部紀要Pp95～106	駒村徳寿・五味義武による大正時代の描写表現指導についてその到達点と課題を明らかにした。
5. 語り合い・聴き合いの授業づくりの研究	単著	2013年3月	常磐大学人間科学部紀要Pp47～65	実践家佐藤康子教授の「語り合い・聴き合い」の授業技術を茨城大学で行われた模擬授業から取り出し、分析・考察を行った論文である。

6. 尋常小学読本における描写表現の位相	単著	2013年10月	常磐大学人間科学部 紀要 Pp35～57	文章上で描写の表現を行うことは、幼児期からのたゆまぬ観察力が求められる。現行の幼稚園教育要領・小学校学習指導要領の指導事項と照らし合わせながら、大正時代の尋常小学読本第1期から第4期の描写表現指導の変遷をたどり、考察を行っている。
7. 『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察～大正五年（創刊号）から大正七年～	単著	2017年9月	常磐大学人間科学部 紀要 Pp29～47	大正5年に創刊された『国語教育』の創刊号から大正7年12月までに掲載されたすべての作文指導に関する論文にあたり、顕著な描写表現指導の行われている7名の表した論文に関して、その指導法、子どもの認識の変容を追い、考察を行っている。
8. 田上新吉における描写表現指導観	単著	2018年9月	常磐大学人間科学部 紀要 Pp25～44	田上新吉は大正10年に『生命の綴方教授』を上梓している。ここではそこに繋がる大正8年・9年に田上により『国語教育』に掲載された論文「綴方教授最近の傾向を論ず」と「作者の態度より見たる文章の分類と其の取扱」に関して、描写表現指導の観点から考察を試みている。
9. 「幼児向け語りの構想における基本的要素」	単著	2021年9月	『人間科学』第39巻 第1号 2021年9月 常磐大学人間科学部 紀要Pp57～74	幼児が惹きつけられ夢中になって「読み聞かせ」の世界に浸れる文章上の基本的要素を検討し、20の要素を取り出した研究論文である。
10. 「ダイダラボウ」「朝寝坊山」における幼児向け語りの構想	単著	2022年3月	『教職実践研究』第 6号 2022年3月 常 磐大学 教職セン ター紀要Pp41～73	常磐大学人間科学部紀要第39巻第1号に示した「幼児向け語りの構想における基本的要素」において取り出した20の要素について、茨城県の民話「ダイダラボウ」と「朝寝坊山」を比較することにより検証し、さらに基本的要素として3つ取り出し、23要素とした研究論文である。
11. 国語科教科書教材「リヤ王」の検討	単著	2022年3月	『人間科学』第39巻 第2号 2022年3月 常磐大学人間科学部 紀要Pp57～74	「小学校学習指導要領（国語）」（平成29年度告示）及び、「令和の日本型学校教育」（答申）に基づき、現在共通教材として国語科教科書に掲載されている文学的な文章の分析を行った。その上で、昭和46年～昭和54年まで光村図書出版の「小学国語六年」に掲載されていた「リヤ王」の分析を試みた。それぞれ思いや思惑の異なる複数の登場人物のめまぐるしく変化する心情を同時的にまた瞬時に読み取っていく必要のある「リヤ王」は今日的価値の高い教材であることを明らかにした研究論文である。
12. 謡曲『鵜飼』教材化の試み	単著	2023年10月 （予定）	常磐大学人間科学部 紀要『人間科学』第 40巻第1号（予定）	学習指導要領にも項目として示されている「伝統的な言語文化」であるが、中学・高校の生徒や指導者にとって謡曲の扱いは難しいとされている。内容を理解した上で、謡曲の作品に仕上げた世阿弥の思いをたどり、その奥深さまで理解できるよう、教材化を試みた論文である。

13. 子どもの不安やリスク回避時における類型的展開に関する考察	共著	2025年3月	常磐短期大学研究紀要第53号	現代社会において、以前に比べ、幼児・児童は、日常において不安や命の危険に遭遇するリスクを背負っている。生活上で遭遇する可能性の高い様々な不安やリスクに対し、幼児・児童の手にする絵本や文学的な文章がどのようにその回避の導きとなっているか、子どもの不安やリスク回避時の類型に関する考察を行っている。
14. 「常磐大学教職課程の実践と考察～小学校教諭免許状取得のための履修課程」	単著	2026年3月	常磐大学教職センター紀要『教職実践研究』第10号	常磐大学教職センター設立10年を期に、2008年から始まった常磐大学教職課程小学校教諭免許状取得のための履修課程における実績の分析と今後の展望を考察した。
(辞書・翻訳書等)				
1. 「7 書くこと(作文)の教育と関連書科学に関する研究の成果と展望」	単著	2013年3月	『国語科教育学研究の成果と展望Ⅱ』全国大学国語教育学会編 141～144頁	2002年から2012年までの国語教育学に関わる研究の中で、「書くこと(作文)の教育と関連書科学に関する成果と展望」を取り上げ、その研究内容と方向性を明らかにしている。
(報告書・会報等)				
1. 「少年の日の思い出」から描写を学ぶ授業	単著	2002年 3月	山梨国語教育実践研究会 第3号	中学校1年生「少年の日の思い出」を描写表現に着目して読むために、小学校既習の「スイミー」「大造じいさんとガン」の二つの教材を使って描写表現の物語中での役割、表現効果を学んだ研究。(1～7頁)
2. 「類義語・対義語の使い方を作品から学ぼう」	単著	2003年 4月	山梨国語教育実践研究会 第4号	「にぎる」と「つかむ」など、和語の類義語を丁寧に見ていくことで一語一語の言葉が背景として持ってきた文化を理解できる教材を実践的に研究した報告である。また、「対義語」から社会的な概念を読み取る実践的な研究の報告である。(1～8頁)
3. 新聞記事を使ったグループディスカッション「自分の考えを伝えよう」	単著	2004年 3月	山梨国語教育実践研究会 第5号	「個人的なおしゃべりは続けることができるのに、公の場面で意見を求められても話すことができない」。この実態に向け、様々な事柄に対して「自分の考えを持つこと」を念頭に、「討論」を行った実践的な研究である。(1～10頁)

4. 「既習の韻文や文学的文章を再教材化し、語感を磨き語彙を豊かにする」	単著	2005年 3月	山梨国語教育実践研究会 第6号	言語には、それぞれ、その地域ごとの自然や生活と結びついた豊かな言葉の表し方がある。日本では「雨」の言い方や「風」のつく言葉や表し方など様々な言い回しにより、その自然現象を表してきている文化がある。そこで「風」や「雨」を読んだ既習の韻文を教材化し、2時間で語感を磨く単元を構成した。(1～8頁)
5. 「修学旅行を描く」「俳句物語づくり」	単著	2006年 3月	山梨国語教育実践研究会 第7号	「紀行文を書く」学習において、旅先での空気感、葉の色、じゃり道を歩く音、風のにおい等、五感を駆使してその瞬間の雰囲気をとどめたいと感じる。その対象を旅先から教室に持ち込み作文用紙へ言葉として置き換える際、描写の表現が生き生きと使われることにより、瞬間密封してきた雰囲気がそのまま文章から立ち上がる経験をする。また、短詩型の俳句をストーリーに起こす際も、描写表現を使った文章を書く機会となる。描写表現に関する実践的な研究である。(1～12頁)
6. 教育雑感	単著	2009年2月	教育実践学会	中原中也「生ひ立ちの歌」を取り上げ、漢字・和語の教育について述べた。(1～7頁)
7. 「読書案内『子どもの「学び方」を鍛える』」	単著	2009年12月	国語科教育書の書評 東京法令出版『月刊国語教育』2009年12月号Vol. 29 / No. 10	『子どもの「学び方」を鍛える』佐藤康子・大内善一著、明治図書出版の書評。
8. 「常磐大学人間科学部渡邊研究室」	単著	2011年2月	東京法令出版『月刊国語教育』2011年2月号Vol. 30 / No.12、054～056	教職を中心とした研究室におけるゼミの運営、研究の進め方などについて、実践に基づいた報告を行った。
9. 「描写力をつけるアイデア」	単著	2014年9月	明治図書『国語教育』2014年9月号No. 777、72～73	苦手を変える「書ける実感」を持たせる作文指導のあり方として描写表現指導について述べた文章である。描写表現を作文に反映させることは難しい。それを簡単に楽しくできる方法を述べている。
10. 「学習用語の習得を支える子どもの気づき・発見を大切にする授業」	単著	2014年3月	日本言語技術教育学会学会誌『言語技術教育』- 23 28～29	学習用語を教室にどう取り入れるかは子どもの意欲化、子ども中心の授業に変えていく上で大きな比重を占めている。この取り入れ方を間違えると教師主導の押しつけ授業になり子どもが自ら取り組むことや課題を発見する事が難しくなる。そうならないための提案を行っている。

11. 「言葉への鋭い感受性を持った子どもたちを育成する」	単著	2014年8月	日本言語技術教育学会学会誌『言語技術教育』－24 82～83	国語科小学校4年生の共通教材「ごんぎつね」の指導内容について、場面毎に比較しながら動作化を取り入れて授業を組み立てることで読み深めを図る提案を行っている。
12. 「大造じいさんとがん」言語技術に着目した指導の観点	単著	2015年7月	日本言語技術教育学会学会誌『言語技術教育』－25 80～81	国語科小学校5年生の教材「大造じいさんとがん」の指導内容について、作者が用いている言語技術と、学習者・指導者が用いる言語技術に分け分析し、提案を行っている。
13. その先を予想する	単著	2016年8月	日本言語技術教育学会学会誌『言語技術教育』－26 38～39	言語技術に着目して国語の力をつけていこうとすると、学びの階段が見えにくくなる。力をつけてきた生徒に向け、さらなるアプローチを言語技術を用いてどう進めるか、「その先を予想する」という方法で提案を行っている。
14. 「読む」ために、低学年から言語技術の基礎を丁寧に	単著	2017年7月	日本言語技術教育学会学会誌『言語技術教育』－27 54～56	高学年になってから学ぶより、低学年の段階で磨いていくと良い言語技術を3つ取りだし、提案している。「言葉を映像として想像できる力」、「視写」の力、「音読」の力である。具体的にどのように行うのか例を挙げながら、論じている。
15. 降り積もる「時」、深まり募っていく想いを言語化しよう	単著	2018年6月	日本言語技術教育学会学会誌『言語技術教育』－28 144～145	国語では、短時間に起こる心情の変化を読み取ろうとすることが多い。しかし、「海の命」は、長く降り積もる「時」の流れを感じ取れるようにしたい。何となく感じていることを言語化することで、深まり募っていく想いに思いを馳せることが可能になる。その提案を行っている。
16. その先を予想する	単著	2016年8月	日本言語技術教育学会学会誌『言語技術教育』－26 38～39	言語技術に着目して国語の力をつけていこうとすると、学びの階段が見えにくくなる。力をつけてきた生徒に向け、さらなるアプローチを言語技術を用いてどう進めるか、「その先を予想する」という方法で提案を行っている。
17. 「読む」ために、低学年から言語技術の基礎を丁寧に	単著	2017年7月	日本言語技術教育学会学会誌『言語技術教育』－27 54～56	高学年になってから学ぶより、低学年の段階で磨いていくと良い言語技術を3つ取りだし、提案している。「言葉を映像として想像できる力」、「視写」の力、「音読」の力である。具体的にどのように行うのか例を挙げながら、論じている。
18. 「流山吟行・俳句のつぼみ」『「ほ」の会合同作品集』	単著	2020年9月	『合同作品集「ほ」大22号』50～53	創作俳句16句を掲載している。
19. 「流山吟行・俳句のつぼみ」『「ほ」の会 合同作品集』	単著	2020年9月	『合同作品集「ほ」第22号』63	「ほ」の会吟行記として流山吟行の紀行文を掲載している。

20. 「春を迎えて」「誕生、そして一日一日」『「ほ」の会合同作品集』	単著	2021年9月	『合同作品集「ほ」第23号』65～68	創作俳句16句を掲載している。
21. 「「ネモフィラ」を歳時記に」『「ほ」の会合同作品集』	単著	2021年9月	『合同作品集「ほ」第23号』10	5月になるとひたち海浜公園の丘を見渡す限り豊かに青く染める「ネモフィラ」。まだ歳時記に収録されていない。「ネモフィラ」が歳時記に収録されることを願って文章を掲載している。
22. 「今一瞬をともに生き／初夏から秋へ」『「ほ」の会合同作品集』	単著	2022年9月	『合同作品集「ほ」第24号』52～55	創作俳句16句を掲載している。
23. 「笠間吟行」『「ほ」の会合同作品集』	単著	2022年9月	『合同作品集「ほ」第24号』59	「ほ」の会吟行記として笠間吟行の紀行文を掲載している。
24. 「あるタベ／神笑ふ」『「ほ」の会合同作品集』	単著	2023年9月	『合同作品集「ほ」第25号』46～49	創作俳句16句を掲載している。
25. 「西山荘吟行」『「ほ」の会合同作品集』	単著	2023年9月	『合同作品集「ほ」第25号』33	「ほ」の会吟行記として西山荘吟行の紀行文を掲載している。
26. 「沈丁花散り敷く／さみどり・さあを」『「ほ」の会合同作品集』	単著	2024年9月	『合同作品集「ほ」第26号』42～45	創作俳句16句を掲載している。
27. 「那珂湊おさかな市場吟行」『「ほ」の会合同作品集』	単著	2024年9月	『合同作品集「ほ」第26号』48	「ほ」の会吟行記として那珂湊吟行の紀行文を掲載している。
28. 「風とともに」	単著	2025年6月	『私が子どもだった頃』131・132頁	東京作家大学作品集に掲載していただいている。
29. 「火伏せの地」	単著	2025年7月	『一人称で日記を書こう』63頁	東京作家大学作品集に掲載していただいている。
30. 「マイフェイバリット（私のお気に入り）」	単著	2025年8月	『マイフェイバリット』54頁	東京作家大学作品集に掲載していただいている。
31. 「140字の小説」	単著	2025年8月	『140字の小説』7頁	東京作家大学作品集に掲載していただいている。
32. 「妻問い」	単著	2025年9月	『オリジナルプロットを書いてみよう』95～97頁	東京作家大学作品集に掲載していただいている。
33. 「なくてななくせ」	単著	2025年9月	『なくてななくせ』54頁	東京作家大学作品集に掲載していただいている。
34. 「水戸駅周辺吟行」『「ほ」の会合同作品集』	単著	2025年11月	『合同作品集「ほ」第27号』23頁	「ほ」の会吟行記として水戸駅周辺吟行の紀行文を掲載している。

35. 「旧友と再会」／ 「夕月とチェロ」	単著	2025年11月	『合同作品集 「ほ」第27号』30～ 33頁	創作俳句16句を掲載している。
36. 「私の一冊」	単著	2026年2月	『私の一冊』33頁	東京作家大学作品集に掲載していただいている。
37. 「桜小鼓」	単著	2026年4月	『東京作家大学2025 年度作品集』40～43	東京放送作家大学、修了制作作品集の一作品として掲載していただいている。
(国際学会発表)				
1. 該当なし				
(国内学会発表)				
1. 「作文教育における 描写表現の研究ー教科書教材を対象としてー」		2005年 5月	全国大学国語教育学会代108回山梨大会	現行の学習指導要領と昭和44年告示の学習指導要領における描写表現の扱い方及び内容についての比較研究と、描写表現の学習のあり方について現行の教科書教と昭和50年版教科書教材とを比較し考察を行った研究である。
2. 「作文教育における 描写表現の研究ー2ー」		2005年 10月	全国大学国語教育学会代109回岐阜大会	前回までの研究をもとに描写表現を取り入れた文章を生徒が意欲的に書く実践を2つ提案した。描写表現を文章中に取り入れようとするこによって対象をどれだけ深くみるかという点に焦点を当てた研究である。
3. 「鈴木三重吉『綴方読本』における描写表現の指導観」		2006年 5月	全国大学国語教育学会代110回岩手大会	大正から昭和初期にかけ、描写表現はどのように作文教育の中で取り上げられたのか、そこから学ぶことは何であるのか、鈴木三重吉『綴方読本』とそこに載せられた子たちの作文を手がかりに現代が失いつつある描写表現の指導価値に着目した研究である。
4. 「作文教育における 《みること・描くこと》の研究		2006年 8月	第13回山梨大学国語国文学会	修士論文として研究を行った《みること・描くこと》についての研究の1部である。現行の学習指導要領と昭和44年告示の学習指導要領における描写表現指導の比較検、現行の教科書教材と昭和50年版教科書教材とによる描写表現指導の比較検討から、これからの作文教育における描写表現指導に求められる課題点を探っている研究である。
5. 「作文教育における 描写表現の研究3」		2006年 9月	全国大学国語教育学会代111回宮崎大会	文章中に描写表現を取り入れるための指導の工夫と生徒に見る力、描く力をつけさせるための指導過程を工夫した実践研究である。

6. 「作文教育における描写表現の研究 4」－金原省吾『構想の研究』	2007年5月	全国大学国語教育学会代112回宇都宮大会	金原省吾『構想の研究』にみられる描写表現の指導価値に着目し、描写表現指導史における『構想の研究』の位置づけと意義を明らかにした研究である。
7. 「心を傾けて聴き合い語り合う生徒の育成を目指した校内研究の成果と課題」	2007年5月	山梨県教育総合センター新研究主任研修会	校内研究において研究主任の立場から、「語り合い・聴き合い」の授業を取り入れていく中で明らかにされた成果と課題を発表した。
8. 「田上新吉の描写表現指導論」－作文教育における描写表現の研究 5－	2007年11月	全国大学国語教育学会代113回岡山大会	田上新吉『生命の綴方教授』にみられる描写表現指導の歴史的な位置づけと意義を明らかにした研究である。
9. 国分一太郎の描写表現指導観－作文教育における描写表現の研究 6－	2008年5月30日 6月1日	全国大学国語教育学会代114回茨城大会	国分一太郎の綴方指導における描写表現指導の位置づけ、意義、到達点を明らかにした。
10. 『写生を主としたる綴方新教授細案』にみられる駒村徳寿・五味義武の描写表現指導観	2008年7月	教育実践学会第16回大会	駒村徳寿・五味義武による大正時代の描写表現指導についてその到達点と課題を明らかにした。
11. 大村はま「学習のてびき」にみられる描写的指導	2009年5月	全国大学国語教育学会代116回秋田大会	大村はまの作文教育における描写表現指導の考え方、具体的指導方法、到達点を明らかにするために「学習のてびき」にみられる指導と生徒作品を考察した研究。
12. 明治期の国語教科書における描写表現の位置づけ	2009年10月	全国大学国語教育学会代1117回愛媛大会	明治期の国語教科書において、描写表現がどのように発展していったか、文章及び指導の観点から探った研究。
13. 大正期の国語教科書における描写表現の位置づけ－作文指導の観点から－	2010年5月	全国大学国語教育学会代118回東京大会	大正期の国語教科書において、描写表現がどのように発展していったか、文章及び指導の観点から探った研究。
14. 昭和戦前期・戦中期の国語教科書における描写表現の位置づけ－作文指導の観点から－	2010年10月	全国大学国語教育学会代119回鳴門大会	昭和戦前期・戦中期の国語教科書において、描写表現がどのように発展していったか、文章及び指導の観点から探った研究。
15. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察	2011年5月	全国大学国語教育学会代120回京都大会	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から花田甚五郎らの描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った発表である。
16. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察 2	2011年10月	全国大学国語教育学会代121回高知大会	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から五味義武の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った論文である。

17. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察 3	2012年5月	全国大学国語教育学会代122回筑波大会	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から志垣寛の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った発表である。
18. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察 4	2012年10月	全国大学国語教育学会代123回富山大会	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から蓮井藤吉の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った発表である。
19. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察 5	2013年5月	全国大学国語教育学会代124回東京大会	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から木下米松らの描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った発表である。
20. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察 6	2013年10月	全国大学国語教育学会代125回広島大会	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から志垣寛の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った発表である。
21. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察 7	2014年5月	全国大学国語教育学会代126回名古屋大会	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から河邊和四郎の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った発表である。
22. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察 8	2014年11月	全国大学国語教育学会代127回筑波大会	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から秋田喜三郎の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った発表である。
23. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察 9	2015年5月	全国大学国語教育学会代128回兵庫大会	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から岡部嘉一の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った発表である。
24. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察10	2015年10月	全国大学国語教育学会代129回西東京大会	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から向坊英文の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った発表である。
27. 『文学鑑賞技術の知見』	2016年10月	日本言語技術教育学会北海道支部第4回空知学会	『文学鑑賞技術の知見』として、中学校2年生光村図書国語科教材「走れメロス」に使われているサスペンスという小説の言語技術の取り立て指導を行うことにより、書き手の立場から作品を読み深めることができることを実践的に発表提案した。

25. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察11	2017年5月	全国大学国語教育学会代132回岩手大会	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から竹内文麿の描写表現に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った発表である。
26. 大正期『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察12	2018年5月	全国大学国語教育学会代134回大阪大会	大正期に出版された『国語教育』という雑誌は、全国の実践家が研究論文を寄せている。その中から峯地光重の「解決すべき綴り方教授当面の課題」を取り上げ、峯地の描写表現指導に関する作文教育の指導法を取り上げ、分析・考察を行った発表である。
27. 『文学鑑賞技術の知見』	2018年7月	日本言語技術教育学会北海道支部第4回空知学会	『文学鑑賞技術の知見』として、中学校2年生光村図書国語科教材「走れメロス」に使われているサスペンスという小説の言語技術の取り立て指導を行うことにより、書き手の立場から作品を読み深めることができることを実践的に発表提案した。
28. 茨城県道德教育研究会助言者として発表	2019年8月	茨城県道德教育研究会	茨城県道德教育研究会において、分科会の助言者として発表を行った。
29. 謡曲「邯鄲」教材化の試み	2025年3月	第23回能楽学会大会	国語科において、伝統的な言語文化の学習に関する重要性が指摘されているが、実際のところ学ぶ機会が少ない。古典に関する学習指導要領の変遷、また、教科書での扱いを分析した上で、「能楽は難しい」という先入観を払拭できるよう、故事成語の「邯鄲」と合わせて、謡曲「邯鄲」を学べる教材を作成し、提案している。
30. 「浄化の心」	2025年10月	水戸ニューモラル研修会	謡曲『卒塔婆小町』『恋重荷』『氷室』を取り上げ、貶めようとした相手を許す心、「氷室」を守り続けている自然や神への深い敬意、有り難さを第二次世界大戦まで語り合い、学びあってきた日本人の文化、心のありようについて「浄化の心」という観点から講演した。
31. 「学校における俳句の授業の在り方」	2026年1月	第4回「教育フォーラム」	小学校における俳句指導は、先行研究や先進校での指導を学ぶことで豊かな者になる。今回の教育フォーラムにおいて、参加教員を児童に見立て、俳句の授業を模擬授業として行い、意見交換をし、研究会を行った。